

「東京未来ビジョン懇談会」が描く未来像（イメージ）について

1 懇談会が描く未来像（コンセプト）

- 2020年の先、2050年頃の東京、日本の未来像の一端
- 数年後や10～20年後の東京に何が求められるか、東京がどうなってほしいかをまとめたもの
- 大胆かつ自由な発想に基づくもの

2 未来像を描く意義

- 都における政策の推進や政策形成等に新たな発想を取り入れることができる。
- 明るい未来像を描き都民に伝えることが、都民の共感につながり、東京の課題解決のための原動力の一つとなる。
- 都民ひとりひとりが、東京の未来を自分のこととして考えるきっかけとなる。

3 懇談会で描く未来像の位置付け（案）

- 2050年頃の東京がどうなっているか（遠い未来を描く）
- 遠い未来を描くにあたって、「段階的にどうなっていてほしいか」にも触れる（東京の近い将来）
- 近い将来の中で、必要があれば具体的な内容にも触れる

懇談会として、メンバーの自由な発想をアウトプット

- 「東京の未来像（の一端）」を都に提案
⇒ 今後の都政運営に向けたアイデア
- 都民（特に2050年頃に第一線で活躍する世代）へ発信
⇒ 都民の共感、未来を考えるきっかけ

【未来像のイメージ図】

